

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2010年9月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.43 「学習指導以外の工夫」

9月の声を聞いても、各地では猛暑日が記録されています。大雨の被害も伝えられています。夏期講習の疲れがドツと出る頃ですね。くれぐれも体調管理にはご注意ください。

遅ればせながら？我が家にも「任天堂 Wii」がやってきました。連日、女房殿と二人の娘が卓球やボーリングに盛り上がっています。もう、ほとんどの方はご存知なのでしょうが、この種のゲームに疎い私には新たな気付きがいっぱいありました。ゲームを始めるにあたり、それぞれのプレイヤーに似せたアバターを作るのですが、娘たちは私のアバターを勝手に作り、「似ている!」と言っては盛り上がっています。

ゲームを始めると、私のアバターが観客として登場します。「オトン(娘たちは私をこう呼びます)が若い女性と浮気している!」と言っては喜んでます。

Wii が広く受け入れられているのも、こうした工夫があちらこちらに施されているからなのでしょう。ただゲームをするだけならば、私のアバターを登場させる必要はありません。しかし、そのことによって、ゲーム全体に「深み」を与えているのも事実です。こうした工夫は塾経営にも大きなヒントを与えてくれます。

誰もが自分や身内がテレビ画面に登場することに興味を持ちます。テレビ局の街頭インタビューに答えただけで、家族・友人に触れ回る人もいます。塾によっては、夏期講習や合宿の様子を撮影し、DVD として配布しているところもあります。多くの場合、参加者の記念品として、あるいは見込み客に対する販促品として利用されています。

とある塾の実践例ですが、最後に塾長の熱いメッセージが編集され、エンドロールに「出演者」として登場する塾生たちの名前が流れます。映画やドラマの最後のように、バックグラウンド・ミュージックに乗って、生徒の顔写真と名前が表示されるのです。さて、このDVDの一番の視聴者は誰でしょう。

当然、生徒の家族です。もしかしたら、おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に見ているかもしれません。その時、お孫さんの名前と写真を目にしたら…祖父母たちの感動は想像に難くありません。

実際、その塾では、「今年は受験のため実家に里帰りできなかったので、合宿のDVDを送って、元気な姿を祖父母に見てもらいました」という家庭もあったそうです。

ご家族にとっては、我が子、我が孫が主人公です。そうした回りの方を喜ばせる工夫が、もっとあってもいいのではないのでしょうか。現在は、デジタルカメラ(ビデオ)の普及によって、手軽に映像コンテンツを作ることが出来ます。ある塾ではオリジナルのコマーシャルを作って、教室の入口に設置したモニターで流しています。教室だけに流れるコマーシャルです。

「コマーシャルは見込み客に届かなければ意味がない」とお思いかもしれませんが、「ウチの塾は、先生たちが自己満足で作った面白いコマーシャルを教室で流しているよ」という口コミが発生します。わざわざ、それを見せるために友人を連れてくる塾生もいます。

こうした、塾の根幹とは関係のない周辺部分の工夫は、ビジネスとしては有効です。コア(学習指導)の部分とのギャップが大きければ大きいほど、中心部分が際立つからです。

ぜひ、自塾で何ができるか考えて下さい。

コツは、あくまでも周辺部分のことですから、深刻にならず楽しんで作ることです。そのワクワク感が伝われば十分です。生徒も巻き込んでアイデアを出してもらうのも良いですね。そうした帰属意識を高めることも、重要なポイントです。

「植毛コンテスト」の様子をコマーシャルで見たことがあると思います。あれは正に顧客の帰属意識を高め、見込み客に信頼を感じさせる大きな武器になっています。

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2010年9月22日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>

業界
TOPICS

vol.18 「M&Aの功罪 成功は数パーセント？」

その一「買い漁りの功罪」

大手Q社や大手Z社などが、全国的な規模で地域一番塾や中堅塾とグループ化を画策しています。前者は手当たり次第といった感じで、後者はかなり慎重です。

前者が手当たり次第となっている背景には、「早くしないと本体の維持も難しくなる」という現経営陣の焦りがあります。M&Aには買った側と買われた側、そして買われた側内部の「もめごと」が付き物ですが、造反分子を切り離していくと、いつしか買ったはずの塾そのものが消えてしまっていた・・・ということも稀ではありません。

後者は数年前に買収した物件で痛い思いをしました。買ってしまってから、「こんな不良債権があったのか？」と仰天したのです。もちろんオーナーの個人的な借金が中心ですが、実際の経営に及ぼす影響は少なくありません。それ以来、M&Aが毎週何十件と舞い込みますが、現実的に損をしないケースは、ほとんどないようです。

その二「機が熟す」

ある暑い日の夕刻、大手R社の代表に電話がかかりました。地元の名門P塾長からのものでした。無借金経営、地域一番の指導力と合格実績、知的レベルの高い経営陣・・・何をとっても一流のP塾がなぜ「R社にうちを買っていただきたい」と言ってきたのか、最初のうちR社の代表は理解できませんでした。

しかし、「もう今しかないんです・・・」と本音で話しはじめたP塾長の説明を聞いてR社の代表も「それならすぐに調べさせてもらいます」と言いました。この時すでに三年間分の決算書類を持参していたP塾長でしたが、その後二週間でさらに会社の内情と自分の経営内容が裸にされましたが、結局マイナスは見つからず、グループ化の方向性

が決定したのでした。

まさに「機は熟す」。ほぼピークの時期に、お互いのメリットとデメリットを高めあい、埋めあう理想に近いM&Aが実現したのでした。

その三「シナジー効果」

合併、グループ化、業務提携のシナジー効果について、業界関係者の間では「100件あったらせいぜい2~3件が成功事例」と言われるように、確率的には数パーセントしか望めないのが実態といったところです。その原因としては、「会社の体質」がありそうです。塾の場合はトップダウンが多いので、経営者の体質といってもよいでしょうか。

たとえ失敗しても造反が起きてても、買った側は秘匿したり切り離したりしますから、外部からは完全な失敗とは見えませんが、仮に10億円で買ったとして、かなり手を焼く処理に数億円使ったら、シナジー効果どころか投資した資金回収も困難になります。

こうしたことを踏まえて、覚悟を決めてM&Aに取り組む必要があるわけです。

◆シナジー効果◆

読み方：しなじーこうか【英】：Synergy Effect

会社を結合することにより、その企業価値が単に1+1が2になるのではなく、3にも4にもなる相乗効果のこと。経営資源が集約されたり、別々の事業の組み合わせにより新たな付加価値が生まれることによってシナジー効果が発生する。例えば同業会社とのM&A（水平型M&Aという）では、重複部門のカットや重複投資を減らす効果が期待できる。また製造会社と販売会社とのM&A（垂直型M&Aという）では、川上と川下が1つの企業に収まることにより、相互補完が可能となるといったメリットがある。

人間関係に学ぶ。

第六回「マッカーサーと蒋介石」

「共通の敵」

日本軍が中国で日中戦争、そして太平洋戦争に突入して快進撃を続けていた頃、マッカーサーはフィリピンにいました。一方の蒋介石は対日・反共政策の見直しに悩み、1937年の盧溝橋事件を契機に抗日を推進しはじめていました。

太平洋戦争中の二人の接点は皆無です。それぞれ自分の陣営の戦いに埋没していたからです。

蒋介石と米国は、「反共政策」において利害が一致しており、戦後は台湾の中民国政府を米国が支持しました。米国は朝鮮半島で起きた朝鮮戦争（1950～1953）で、中国の共産政権に対抗せざるをえなかったからです。

「実は親日家」

しかし、蒋介石は日本の砲兵学校で学び、日本の文化や習俗を尊敬し、日本の天皇制も支持していたので、ルーズベルトから日本の占領政策についてアドバイスを求められた際に「日本の国体に対しては戦後の日本国民自身が解決すべきである」と進言したとされています。

マッカーサーは、連合軍総司令官として日本に来る前、1905年に駐日アメリカ大使館付き武官である父の副官として東京勤務を経験したことがあります。太平洋戦争中は、怒涛の勢いの日本軍に圧倒されてフィリピンのマニラを放棄し、バターン島とコレヒドール島で籠城するも、反抗可能となり、「I shall return 私は戻ってくる」と言い残してオーストラリアに脱出しました。軍歴に大きな傷をつけた日本は米国の敵であるだけでなく、マッカーサー自身の敵ともなったのです。

しかし、戦後の占領時代においては、数々のエピソードを残し、絶対的権力ゆえに「判官びいき」の日本人の心を掴み人気を高めていきました。大統領選の出馬する際にも彼を支援する動きが各地で起こったのです。

「歴史を作った男たち」

蒋介石は晩年、自分の親族に継承して各方面からの反発を招き、「毛沢東は周恩来を信じられたが、蒋介石は息子以外誰も信じることができなかった。陽明学の信徒としての限界だ」とされました。

マッカーサーは引退後に再度大統領選への意欲を見せましたが、高齢を理由に支持を得られず断念、世界初の商用コンピュータを開発した、当時のタイプライターメーカーのレミントンランド社の会長に迎えられました。1964年に老衰による多臓器機能不全で死去すると国葬となり、日本代表としてかつてのライバル吉田茂が参列しました。

◆ ダグラス・マッカーサー（1880～1964）◆



1945年8月15日、無条件降伏した日本を占領した時の連合軍総司令官。専用機「バターン号」で神奈川県厚木飛行場に到着し「メルボルンから東京までは長い道のりだった」と言った。日本だけでなく米国においても国民的人気があり、二度の大統領選に挑戦したが果たせず、挑戦戦争後に更迭され引退、「老兵は死なず、ただ消え去るのみ（Old soldiers never die; they just fade）」という名台詞（実は歌のフレーズを引用していた）を残して退任した。コンピュータメーカーの「レミントンランド社」の会長を経て84歳で死去、国葬の際には吉田茂が参列した。

◆ 蒋介石（しょうかいせき 1887～1975）◆



中華民国の政治家であり軍人の蒋介石は「蔣中正（チアン・ジョンチェン）」が台湾では一般的。1943年のカイロ会談では中国代表として、ルーズベルト、チャーチルとともに出席。日本の砲兵学校に学び親日家だったが、抗日戦争では日本に対抗して勝利し、戦後は国内で国共内戦でアメリカの支援を受けるも敗れて台湾に中華民国を樹立。三十年近く総統の地位にあったが、1975年87歳で死去。「以德報怨（徳を以て怨みを報ず）」と称して中国大陸から日本兵と民間人の復讐に最大限の便宜を図り高い評価を得ている。

取材／記事 : 新教育産業監修・月刊私塾界記者 千葉誠一

■ ご意見・ご要望をお待ちしています。知りたい「テーマ」や内容などについて教えてください。できるだけ対応したいと思っています。 ご連絡はこちらまで：magazine@chuoh-kyouiku.co.jp